

元気なオタマジャクシにしたいね! -小学校の施設を活用して-

年長

ねらい

- ・小学校の施設を知り、関心や親しみの気持ちをもつ。
- ・身近な生き物の変化に気付き、友達と伝え合う。
- ・疑問に思ったことや知りたいことを小学校の図書室で自分なりに調べる。

実践の概要

カエルの卵がうまく育たず死んでしまった。「どうしたらいいかな?」と疑問に思ったことを友達と一緒に図鑑などで調べ始めました。

どうしたらいいかな…

元気なオタマジャクシにしたいね。

幼稚園にある本には載ってないね…

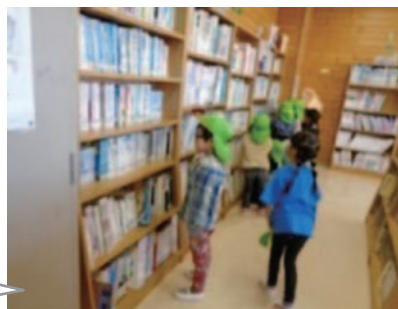
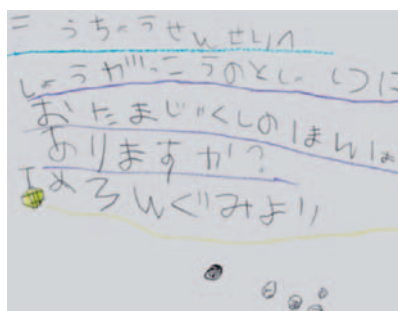
園の図鑑だけでは調べきれずにいたところ、ある子が「お姉ちゃんが行っている小学校の図書室にはたくさん本があるから行って調べたい!」と言いました。ナイスアイデア!子どもたちは、隣の学校の校長先生へお願いの手紙を書くことにしました。

その思いを実現させるため、教師がタイミングを逃さず小学校と連絡を取ったところ、校長先生から「ぜひどうぞ」とお返事をいただき、図書室を利用することになりました。

図書室では、たくさん本の中から自分で選んで調べたり、友達と伝え合ったりする姿が見られた。また校長先生と一緒に給食の準備の様子や校長室など、校内を見学することもできました。

子どもたちにとって楽しい経験となり、「また小学校に行ってみたいね!」と幼稚園に戻ってから自分たちなりに絵や言葉でお礼の手紙を書き、後日届けました。

カエルの本がたくさんあるよ!



実践のポイント

教師の援助

- ・幼児の思いや意欲を大切にしながら支えていく。

工夫した環境や教材など

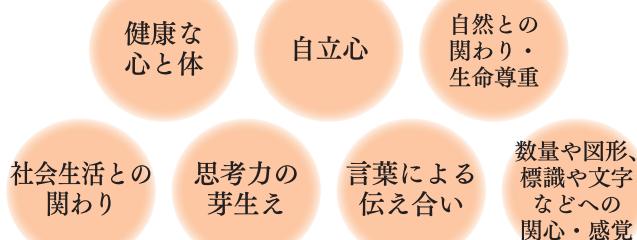
- ・幼児の興味が逸れないうちに小学校に連絡を取り、施設を利用できるように計画した。



ココが良かった!

- ・図書室には調べたい内容の本が多くあり、自分で選び、調べた内容を友達と伝え合う姿があった。
- ・その後、楽器に興味をもった子どもたちが発案した「音調べ」でも、小学校の音楽室の利用と本物の楽器に触れる経験につながった。小学校が「やりたいことを実現できる環境」の一つとなった。

育まれている10の姿



ねらい

- ・小学校で行われていることを実際に見ることで、自分たちだけでは気付くことのできない方法に気づき、真似て取り入れようとする。

実践の概要

屋上の畑で栽培活動をしている年長組。収穫間近のトウモロコシが、ある日無残に食べられ、「カラスの仕業だ！」と鳥の存在に気付いた子どもたち。屋上には他にも稲を植えています。教師は“どうやって稲を守るか自分たちで気付くことができるようにしたい”“近々小学校に遊びに行くため、その機会を活かしたい”と考え、「遊びに行ったときに田んぼを見せてほしい。」と学校と連絡を取りました。

当日、田んぼのそばを通りかかると、稲の周りに張り巡らせた網に気付いた子どもたち。学校の先生が「スズメにお米を取られないように網を付けているんだよ。」と教えてくれました。

それを聞いたA児が「幼稚園のトウモロコシにも網を付ければ良かった。」とポツリ。B児が「幼稚園のお米にも網付けなきゃ！」と気付きました。

幼稚園へ戻ると早速、自分たちのお米にも小学生と同じように網を付け、「スズメが入れるようなところはないかな?」「これで大丈夫だね！」と安心した様子でした。

自分たちの田んぼにも網をつけよう！



何だこれ？



実践のポイント

教師の援助

- ・幼児が自分たちで考えて気付いたことを受け止め、認めたり周りの幼児に知らせたりする。

工夫した環境や教材など

- ・教師の意図である「学校の田んぼを見て網の存在に気づき、必要感に気付いてほしい」ということを学校に伝え、協力を得る。



ココが良かった！

- ・小学校の先生の言葉を聞いて、自分たちのお米も網を掛ければ良いのだと自分事として捉えていた。
- ・小学校の先生が直接伝えてくれたことも意識の高まりにつながった。
- ・施設利用、学校教師との関わりによって小学校への期待、憧れが高まった。
- ・スズメが入れるところがないか、友達同士で声を掛け合って確かめていた。

育まれている10の姿

健康な
心と体

自立心

自然との
関わり・
生命尊重

社会生活との
関わり

思考力の
芽生え

言葉による
伝え合い

安心して小学校生活を迎えるためにー小学校教諭から幼稚園保護者へー

教職員

ねらい

- ・保護者が小学校生活について知り、就学までの流れや就学後の生活について見通しをもち、安心して家庭で取り組める必要な事柄に取り組もうと思ったりできるようにする。

実践の概要

就学が間近となった10月の参観懇談会に小学校の先生をお招きし、『小学校での生活』等について年長児保護者に向けてお話をさせていただきました。

保護者の不安の一つである学習の進め方について、小学校では「時間割」の上で45分間の教科（学習）があるが、入学当初は徐々に新しい環境に慣れ、楽しく安心して毎日が過ごせるように配慮した「スタートカリキュラム」があることをお話ししていただきました。

また、その他給食や宿題、生活リズム等についても実際の小学生の写真を交えながら分かりやすくお話ししていただきました。

「入学したら子どもだけで登校することになるけれど大丈夫かしら?」「うちの子、好き嫌いがあるけど給食時間はどんな指導があるのかしら?」などの保護者の質問に対して具体的な回答とアドバイスがあり、安心感につながりました。



小学校教諭

家庭ではお子さんの話を聞いて受け止めることが「人への優しさ」「考える力」「失敗を乗り越える力」など多くの学びに繋がるため、お子さんの話をじっくり聞いて認めてあげる時間を設けてください。

「あれもこれもできるようにならなきゃ!」と力を入れ過ぎず、入学を楽しみに来てください。

実践のポイント

- ・「小学校の先生に実際に聞いてみたいこと」と題し、保護者に事前アンケートをとった。
- ・小学校教諭に来園時間を早めに知らせ、子どもたちの様子を見ていただいた。
- ・参観後、かねてから顔見知りになっていた園児と小学校教諭が触れ合っている様子を保護者に見てもらえたことも安心感につながった。



ココが良かった!

小学校の先生には、懇談会の前に設定している保護者参観時の保育も見ていただいた。そのうえで「当日の幼児の姿から見られた学びの姿」「幼児期の学びが小学校の学びにつながっていくこと」などを、保護者に具体的に伝えてくださった。それにより、同じ場面を見ていた保護者にも、幼児期の遊びや経験が小学校生活の基盤になっていることが伝わりやすかった。